

<研究助成について>

私どもの研究所は1988年(昭和63年)に設立され、研究助成を始めました。初年度は研究助成課題を公募することができなかつたため、専門委員の先生方をお願いして、各地の大学などで進められている研究の中から助成の対象としてふさわしいものを選んでいただきました。翌1989年度から公募を開始し、今年で28年目になります。当初は教授・助教授の方々からの応募が多かったので、若手研究者も応募していただくよう、1995年度から特に大学院課程に在籍する方に向けた育成研究助成(二年間の助成)を設けました。おかげさまで今では若手からの応募のほうが多いくらいです。これまでの総応募数1432件、うち173件を採択し、総額1億8442万8千円の助成をしてまいりました(表1)。今回は個別(一年間の助成)・育成と分けた助成が定着した1999年からの応募状況やこれまでの採択状況についての情報をまとめましたので、今後のご参考にさせていただけたら幸いです。

<各項目のグラフ等の説明>

図1. 応募件数の推移と採択率(1999-2015年度)

- ・応募件数は年によって様々だが、近年(特に個別において)増加。
- ・採択率の平均は全体で13%、個別は16%、育成12%で個別のほうがやや採択率が高い(図1)。また、近年は応募数が増えたため、採択率は下がっているが、採択数はむしろ増えている。
- ・2011年度に育成で過去最高の3件を採択。個別の採択数を上回る。以降、3件採択がスタンダードになり、育成のほうが採択率が良くなった。

表2. または図2. 採択課題の分類群別内訳

- ・20動物門(無脊椎動物全般を除く)にわたり幅広く採択している。
- ・節足動物と軟体動物で約半分を占めたが、動物の種数が多い分研究者も多く、必然的な結果と思われる。

表3. または図3. 採択課題の分野別内訳

- ・予想通り分類・生態に関する課題が多い。

- ・1995年以降、募集要項に“フィールドでの調査研究”という条件が付き、生化学・生理学の応募、採択が少なくなったと思われる。
- ・その他には水産・系統地理・環境・群集・進化などが含まれる。

表4. または図4. 採択者の所属(当時)

- ・大学関係者が約8割。

表5. または図5. 採択者の地位(当時)

- ・大学院生が最も多いが、48名のうち37名が育成での採用である。
- ・しかし以前に比べて個別でも大学院生の採用は増えている。

その他

- ・育成・個別どちらも採択されたのは過去に1名のみ(ただしまったく異なる課題)
- ・個別を複数回採択された人はいない(共同研究者を除く)
- ・2回目の採択はあり?なし?←よくもう一回もらえるか?と聞かれます

表1. 研究助成の応募・採択数と助成金額

年度	応募数	個別	育成	採択数	個別	育成	採択率	個別	育成	助成額(千円)
1988				4						4,500
1989	71			5			7%			5,535
1990	115			8			7%			9,510
1991	110			9			8%			10,270
1992	99			9			9%			11,000
1993	100			10			10%			11,000
1994	助成見直し									
1995	21	15	6	7	5	2	33%	33%	33%	6,960
1996	中断									
1997	中断									
1998	中断									
1999	80	63	17	8	6	2	10%	10%	12%	8,067
2000	46	31	15	7	5	2	15%	16%	13%	7,500
2001	48	29	19	6	4	2	13%	14%	11%	6,800
2002	54	25	29	6	4	2	11%	16%	7%	6,799
2003	67	32	35	7	6	1	10%	19%	3%	6,146
2004	40	26	14	5	4	1	13%	15%	7%	4,800
2005	56	39	17	7	5	2	13%	13%	12%	7,496
2006	60	35	25	6	4	2	10%	11%	8%	4,797
2007	50	29	21	7	5	2	14%	17%	10%	5,500
2008	49	26	23	7	5	2	14%	19%	9%	7,500
2009	38	17	21	4	3	1	11%	18%	5%	3,800
2010	48	28	20	7	5	2	15%	18%	10%	7,500
2011	47	28	19	7	4	3	15%	14%	16%	8,800
2012	64	42	22	8	5	3	13%	12%	14%	9,500
2013	42	29	13	9	6	3	21%	21%	23%	10,200
2014	53	43	10	9	7	2	17%	16%	20%	9,900
2015	74	55	19	11	8	3	15%	15%	16%	10,548
合計(採択率は平均)	1432	592	345	173	91	37	13%	16%	13%	184,428

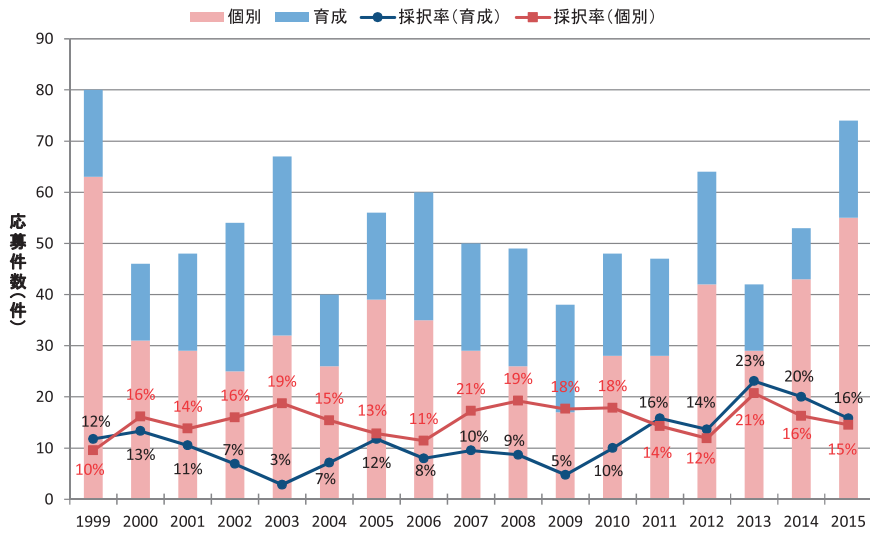


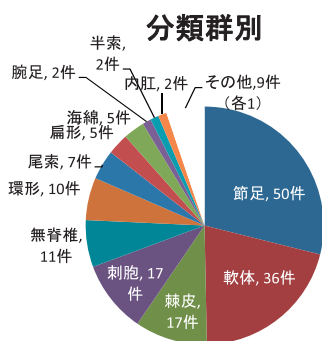
図1. 応募件数の推移と採択率(1999-2016年度)

<コメント>

- ・採択率も良くなっているし、限られた期間しか応募できないので、若者はぜひ育成にチャレンジしてほしい!
- ・マイナーな動物門も積極的に応募してほしい。
- ・採択課題の詳しい内容についてはホームページに載せてあるのでそちらを参照。
- ・助成を受けた方からは「あの時の助成のおかげで本当に助かった」「基礎研究にお金を出してくれるところは少ないのでありがたい」などと、大変嬉しいお言葉をいただくことが多々ある。一方なかなか採用されない方からは「どうしたら採択されるのか」と強い熱意が伝わってきます。
- ・私としては助成によって無脊椎動物の研究が発展すること、研究者が増えることを願うばかりです。

分類群	採択件数
1 節足	50
2 軟体	36
3 棘皮	17
4 刺胞	17
5 無脊椎	11
6 環形	10
7 尾索	7
8 扁形	5
9 海綿	5
10 腕足	2
11 半索	2
12 内肛	2
13 緩歩	1
14 有櫛	1
15 毛頭	1
16 腹毛	1
17 紐形	1
18 動物	1
19 線形	1
20 外肛	1
21 頭索	1
合計	173

表2. または図2. 採択課題の分類群別内訳



分野	採択件数
t 分類	67
e 生態	60
p 生理	20
w 生物相	11
h 発生	10
b 生化学	9
その他	21
合計	198

1つの課題で複数分野の扱いあり

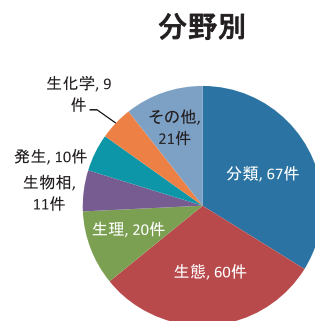


表3. または図3. 採択課題の分野別内訳

所属(応募当時)	採択件数
d 大学	105
q 附置研究所	10
w 理工学系	37
e 農水産系	20
r 医学・薬学系	8
t その他	17
m 博物館・水族館等	11
j 国公立研究機関等	10
k 高等学校教諭	6
o その他	4
合計	136

y 臨海実験所 14

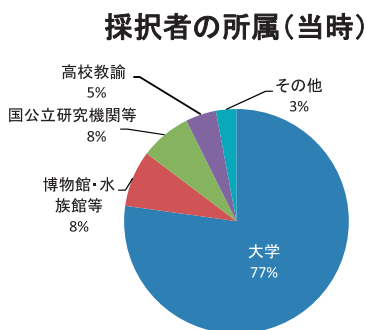


表4. または図4. 採択者の所属(当時)

地位(応募当時)	採択件数
教授	4
助教・准教	37
講師・助手	32
研究員・PD	13
大学院生	48
その他	7

採択者の地位(当時)

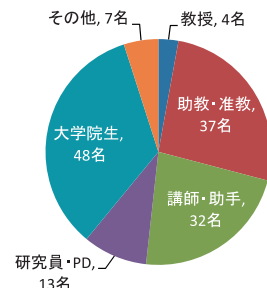


表5. または図5. 採択者の地位(当時)